

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
ハミング子ども教室		令和7年 1月 24日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		定員10名に対し、大部屋1, 中部屋1, 小部屋2と活動において使い分けている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		定員10名に対し、非常勤も含め常時スタッフ約8名での支援体制を心がけている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		建設に関しては市の許可をとっており、廊下は車椅子も通れる幅にしている。特性に応じて、工夫箇所がある。	トイレや部屋、ドアの開閉の危険性について、スタッフが特に注意するようにしている。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		自由遊びの時間など、各部屋を開放したり園庭でしっかりと体が動かせるようにしている。課題の時間に応じて、各部屋に分かれ支援する場合もある。掃除は、毎日行っている。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		タイムアウトや午睡等、状況にあわせて使用できるようになっている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10		観察支援や、計画書作成等において会議を開き職員が参加したり意見できるようにしている。	非常勤職員が会議などに参加できない場合は職員伝達ノートに記入し確認するようにしている。また、欠席時は後日児発管が伝達し意見を聞く体制を設けている。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		評価表回収後に、会議を開き保護者の要望や意見について、改善または向上する内容で議論できるようにしている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		会議の際、児発管、室長、管理人が参加し支援員ひとりひとりの意見が尊重されるように心がけており、意見が支援につなげられるようにしている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	2	8	総会等で、外部の意見をもらうことがある。	現在は第三者評価を行っていません。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		職員研修や外部研修は年に数回行っています。また、県や市の研修会などは職員に周知し参加できるようにしている。	
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	7	保護者の方には、書面でお渡ししており、懇談時にお互いに確認しあっている。	今年度内に公表予定。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	10		定期的に個別観察支援を行い発達状況を把握し支援計画につなげ、保護者の方の意見は普段の会話ややりとりのなかで確認しあい、作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		常にスタッフ全員の意見が尊重され、こどもの最善の利益を理解して作成していけるようにしている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		子ども達ひとりひとりの成長を、スタッフ全員が応援していけるように取り組んでいる。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		ポータープログラムを用いた個別観察支援や、保護者とのやりとりを通して、支援時間外の活動や状況も把握し、適応行動の状況を確認できるようにしている。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		本児、保護者、家庭の状況を確認しながら個別支援計画書に記載している。	

援 の 提 供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9	1	スタッフ全員の意見が聞けるように心がけている。	会意に参加できなかったスタッフには、後日意見を聞けるようにしている。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9	1	大まかなプログラムに関しては、一貫した内容で進められるようにしているが、個々の内容に関しては新しい課題を導入しやすくしている。	それぞれの領域を経験していけるように、週間での領域プログラムはおおむね固定している。流れをつかみやすく、安心して活動に参加できる子が多いため。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	10		常に、ひとりひとりが個別活動と集団活動を楽しめるように日ごろの支援につなげている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10		朝の打ち合わせも含め、参加支援員全体で確認できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10		支援後の会議や打ち合わせ時に、振り返りを行っている。また、その日の出来事や保護者との話の内容なども共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10		業務日誌や伝達ノートに記入し、スタッフ全員が検証して改善できるようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	5	定期的に個別観察支援を行い個別支援計画の改善や見直しの必要性を判断している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	5	自立支援協議会などに参加し、相談支援事業の方と話をすることもある。相談支援事業所をりようしている場合、担当員が見学に来てくれ打ち合わせをしている。	現在、1名相談支援事業所を利用しているが利用開始の際の連絡以降、現段階ではサービス担当者会議の連絡は来ていない。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10		定期的な保健センターや医大の小児科や相談室の発達検査等、保護者の同意があれば共に参加し担当医や相談員との連携をとっている。また、地域の小学校や支援学校にも見学や面接などに同行するようにしている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		併行先の幼稚園や保育園に出向き普段の状況を見学させてもらい、担任や園長などの関係者と情報共有をしたり、今後の支援内容などを打ち合わせをしている。また、併行先からの相談をうけ来園する場合もある。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	10		保護者を通して、就学先の担当者や情報共有をしたり、就学相談での教育委員会の担当者が来所し打ち合わせなどもしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	×			
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	×			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	×			
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4	6	センターの担当の方に連絡を取り、センターの見学や支援内容など、情報を共有して頂くこともある。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	3	7	地域の公園や、大型の公園などに出向き地域の中で他の子どもや大人と関わりを持てるようにしている。	現在のところ、定期的に他園への参加はしておりません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10		送迎時に日ごろの発達状況を伝えあったり、メモや日誌を用いて日ごろの様子や出来事、悩み事のやり取りをしている。また、保護者の思いや本児の状況などについて相互理解していけるように心がけている。	

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	6	福祉の外部講師を招いて勉強会を行ったり、保護者のOB会を開きこれから先の就学やサービス利用についてなど話を聞いたり情報共有できる機会を設けている。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10		契約時等、児発管が書面を用いて説明しながら同意を得ている。また、玄関に常に観覧できるように必要書類を置いている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10		個別支援計画に沿って支援を進められるよう、懇談会を開いたり事前にキッズサポートリストなどに記入してもらいなど、子どもや保護者の意思をしっかりと理解し尊重できるように心がけている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	10		本児の状況、保護者の希望などを考慮し、自発管が説明したり、訂正があればすぐに修正できるように声掛けをして同意をえている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10		日々、本児の様子を含めご家庭の様子を伺い、必要に応じて即時面談を行ったりご家族が参加できるように日程を決めて懇談などを行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		定期的な行事や勉強会など、多くの保護者が顔を合わせる機会がもてるようにしている。また、きょうだいや祖父母親戚の方なども行事には参加できるようにしている。	
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		保護者の申し入れはもちろん、お子さまの気持ちも考慮できるようにふだんから情報のやり取りをし、相談を受け入れる体制をお伝えしています。また、契約時に相談窓口についても説明させて頂いております。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	9		日々の行事や活動予定については、毎月の予定を毎月発行している。また、年間予定表については年度初めにお渡ししている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		取扱いに十分留意しています。また、情報共有が必要な場合は担当者を決めています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		お子さまはもちろん、申し出があった保護者の方など、スタッフ全員で配慮できるように心がけています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	1	行事などに、ボランティアのマジシャンやよさこいの団体の方など事業所外の方なども参加してくれています。また、自治会の方も理解してくれており公園の遊具を新調してくれたり砂場の砂を入れかえてくれている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		ハミングリスクマネジメントを作成し、毎月訓練を行っている。	
	46	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		BCPを作成しており、避難確保計画に基づき訓練をし市に報告している。また、訓練後に会議をし改善点を話し合っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		事前アセスメントを保護者と行い、服薬やてんかん、持病や病歴などを確認しあい情報を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		事前アセスメントにおいて、指示書が必要な状況であればそれに従っている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		ハミングリスクマネジメントを基に支援し、年度初めにスタッフ全員で確認している。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		事故や災害時などの対応については、事前に説明しており避難場所についてはすぐに確認できる日誌に常に入れてる。	
51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		ヒヤリハットが起きた場合は即日会議をし記録し、再発防止に向けて検討している。また、欠席者には後日児発管から説明している。		

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		定期的に虐待防止についての研修を行い、年に2回スタッフアンケートをとり、スタッフ全員が適切な支援を続けていけるようにしている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	10		個別支援計画に記載しており、懇談会の際に説明をし理解して頂いています。	